

イ・ブル展：私からあなたへ、私たちだけに

2012年2月4日(土)ー5月27日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

究極の身体、理想の社会を求めて

アジアを代表する韓国女性アーティスト、世界初の大規模個展

森美術館は、2012年2月4日(土)から5月27日(日)まで、「イ・ブル展：私からあなたへ、私たちだけに」を開催します。イ・ブル(1964年生まれ)は、1990年代、ニューヨーク近代美術館やリヨン・ビエンナーレ、ヴェネチア・ビエンナーレなど数々の国際的な美術館での展覧会や国際展に参加し、以降、現代アジアを代表する韓国人アーティストとして国際的な評価を確かなものにしてきました。

1980年代末以降、韓国が国家として民主化、近代化、経済発展を遂げていく過程でアーティストとしてのキャリアを築いたイ・ブルは、20世紀のさまざまなユートピア理論や文学、社会政治学に言及し、同時に韓国の近代史や自身の個人史を編み込みながら、理想の社会の在り方や人間像を問い続け、その普遍的な価値を模索してきました。

本展は、自身の身体を使った初期のパフォーマンスから、人間を超越した存在としての彫刻シリーズ、建築や都市模型をイメージさせる近年の作品まで、究極の身体、理想の社会を追い求めてきたイ・ブルの思考プロセスを、新作を含む代表作約45点を通して一望する世界初の大規模個展です。



〈ブルーノ・タウトに倣って(物事の甘きを自覚せよ)〉 2007年 ビーズ、ステンレススチール、金網、ポリ塩化ビニル、チェーン 258 x 200 x 250 cm
展示風景：「すべての新しい影の上に」カルティエ現代美術財団、パリ 所蔵：ギャラリー・タデウス・ロバック、ザルツブルグ、パリ
Courtesy: the artist and Fondation Cartier pour l'art contemporain, Paris Photo: Patrick Gries

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、品川、桐木

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

本展のみどころ

■ 世界初の大規模な個展—ミッドキャリア・レトロスペクティブ*1

イ・ブルは、1990年代から国際的に注目を浴び、ニューヨーク近代美術館のプロジェクト(1997年)、ヴェネチア・ビエンナーレの韓国館(1999年)をはじめ、数々の国際展に参加してきました。アジアを代表するアーティストとして日本でも何度も紹介されていますが、本展は20年にわたる彼女の活動を網羅し、新作を含む代表作約45点が一堂に会する世界初のミッドキャリア・レトロスペクティブです。

*1 ミッドキャリア・レトロスペクティブ:アーティストのキャリアの晩年や没後に開催されるイメージが強い「回顧展」に対して、一定のスタイルを確立した中堅アーティストが数十年間の仕事を網羅的に見せる展覧会。

■ 本展のための新作

展覧会のサブタイトルである「私からあなたへ、私たちだけに」は、アーティストから広く社会に訴えるメッセージでありながら、それを政治的、プロパガンダ的な方法ではなく、むしろ政治的、社会的な変革の波に翻弄される個人の感情、パーソナルな関係性を重視するイ・ブルの姿勢を表しています。理想の社会を考えるうえで、全体と個人の関係性を意識させる示唆に富んだ言葉です。この姿勢は展示の最後で披露される本展のための新作に見ることができます。

■ 美術の歴史と韓国の近代史、イ・ブルの個人史が融合した普遍的な世界観

1964年生まれイ・ブルは軍事独裁政権下に育ち、1987年の民主化宣言を経て国家が急速な近代化や経済発展を遂げて行く過程にアーティストとしてのキャリアを構築しました。植民地時代、南北の分断、クーデター、革命など韓国の政治史や社会史を踏まえつつ、人類史上人々が希求した理想の社会、ユートピアの普遍的な価値を模索し、そこに彼女自身の個人史を重ねあわせることで創出された独自の世界観をご覧ください。

■ ガラス、ビーズ、チェーンなど、素材を駆使した輝かしい世界

イ・ブルは、木や石、粘土といった伝統的な彫刻素材ではなく、ガラス、ビーズ、チェーンなどモダニズムを象徴する工業製品や素材を駆使しながら、モダニズムが否定した過剰なほどの装飾性を通して、価値の転換や美と醜の関係性を示唆します。これらの作品はドラマティックな照明のなかで、超現実的な輝かしい世界を創出します。

■ アーティストのスタジオ再現

洗練されたスタイリッシュな作品や展示は、アーティストの大量のドローイングや模型を通じた試行錯誤から生み出されます。本展では、「スタジオ」と題したスペースで、それらのドローイングや模型、作品素材などを展示。アーティストの脳内を覗き見るかのような思考プロセスを視覚化します。

主催: 森美術館

後援: 駐日韓国大使館 韓国文化院、在日本大韓国民団中央本部

協賛: 株式会社大林組、トヨタ自動車株式会社、Soo Seok Trading Co., LTD.、Ilshin Foundation、三建設備工業株式会社、新菱冷熱工業株式会社

特別協力: 株式会社菱晃 **協力:** シャンパーニュ ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア

企画: 片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

会場: 森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

開館時間: 10:00-22:00 | 火10:00-17:00 | *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

*ただし3/20(火・祝)は22:00まで、3/24(土)は「六本木アートナイト2012」開催に伴い翌朝6:00まで開館

入館料: 一般1,500円、学生(高校・大学生)1,000円、子供(4歳-中学生)500円 *表示料金に消費税込

*本展のチケットで「MAMプロジェクト016:ホー・ツニーエン」展、展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金300円がかかります

お問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報: 渡邊、瀧、品川、桐木

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

展覧会概要

イ・ブル(1964年生まれ)は、1990年代以降、世界のアートシーンが急速にグローバル化する中、現代アジアを代表するアーティストとして国際的に注目を浴びてきました。1997年にはニューヨーク近代美術館のプロジェクトで紹介され、1999年にはリヨン・ビエンナーレに参加、ヴェネチア・ビエンナーレでは韓国館代表アーティストにも選ばれます(二人展)。その後は、イスタンブール、上海など各地の国際展、カルティエ現代美術財団(パリ)などでの個展、さらに欧米やアジアを中心として世界各地でのグループ展に参加してきました。本展は彼女の20年にわたる活動の中からその代表作約45点が一堂に会する初めての大規模な個展です。

1980年代後半、軍事独裁政権下でアーティストを志したイ・ブルは、1987年の韓国の民主化宣言と時を同じくして作品を発表しはじめます。新しい社会への期待と先の見えない不安は、自身の身体を使った初期のパフォーマンスで彼女が身につけたモンスター(怪物)のようなソフト・スカルプチャーに窺うことができますが、それは後に独立した彫刻シリーズ「モンスター」(1998年～)やそのドローイングとして発表されます。また、ひとつの価値観や輝かしい時代が崩壊して行く様は、派手な装飾を施した生魚が腐敗するプロセスを見せた《荘厳な輝き》(1997年)で表現されました。これはニューヨーク近代美術館で展示されましたが、その腐敗臭のために撤去される結果となり、イ・ブルにとっては「芸術の終焉」を象徴する作品となると同時に、アートの根源的な意味への問い掛けへと繋がります。

同じ時期、イ・ブルは完璧さへのビジョンや人類を超越したポスト・ヒューマンなど、時代を越えて人類が思い描いてきた理想の人間像を、「サイボーグ」(1997年～)や「アナグラム」シリーズとして発表しはじめます。古典的な西洋の立像から映画やアニメのディストピア(暗黒郷)世界にみる人間と機械のハイブリッドな生命体まで多様な参照が可能な「サイボーグ」は、いずれも頭部や手足の無い不完全な形を通して理想の身体の意味を問い掛けます。また、言葉を入れ替えて新しい言葉をつくるシリーズ名どおり、「アナグラム」では有機的な形態が多様な間接で接続されており、人類を超越した未来の生命体のようにも、古代地図にある知らない世界の神話的な生物



《切望》 1989年
屋外パフォーマンス、長興(チャンフン)、韓国
Courtesy: Studio Lee Bul



《サイボーグ W1》 1998年
シリコン、ポリウレタン、塗料用顔料
185 x 56 x 58 cm
所蔵: アートソングジェ・センター、ソウル



《アマリリス》 1999年
ポリウレタンパネル、アルミニウム、エナメル塗料
210 x 120 x 180 cm
所蔵: アラリオ・コレクション、ソウル
Courtesy: Studio Lee Bul
Photo: Rhee Jae-yong

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 渡邊、瀧、品川、桐木

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

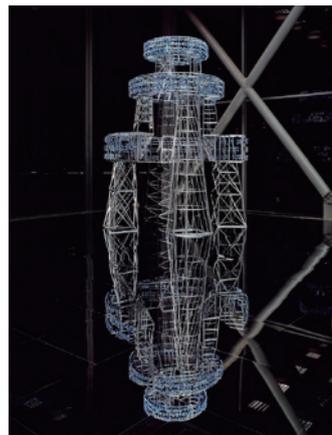
106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

のようにもみえます。

一方、2005年に始まった建築、都市模型を連想させるシリーズ「モン・グラン・レシ」(私の大きな物語)では、理想の社会を構想したブルーノ・タウトの「アルプス建築」(1919年)やウラジミール・タトリンの「第三インターナショナル記念塔」(1919/1920年)など20世紀初頭のユートピア論が参照されています。また、《雪解け(高木正雄)》のように韓国の軍事独裁政権を築いた朴正熙(パク・チョンヒ)(1917-1979年)の日本語名を冠した作品や、中国と北朝鮮の国境地帯にあり朝鮮半島の霊山でもある白頭山(ペクトゥサン)の頂上のカルデラ湖、天池(チョンジ)をモチーフにした《天と地》など、朝鮮半島や韓国の近代史にも言及することで、シリーズ全体は時代や地域を越えた普遍的な価値としての理想社会を考えさせます。

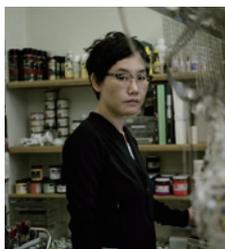
展覧会の最後に展示される新作は、「私からあなたへ、私たちだけに」という展覧会のサブタイトルと連動しています。アーティストは表現を通して広く社会との関係性を求めつつ、それは政治的、プロパガンダ的な方法や意味ではなく、むしろ政治的、社会的な変革の波に翻弄される個人の感情、パーソナルな関係性を重視しています。理想の社会と個人の幸福、全体と個の関係性について考えさせる示唆に富んだ作品です。

今年3月の東日本大震災と原発事故によって、明治以降の近代化と戦後の経済発展を経てきた日本社会は、全く異なる状況に置かれました。政治的、経済的な価値基準によらない理想の社会とは何かを強烈に問われている今日の私たちにとって、隣国韓国で20年にわたって活動을続けて来たイ・ブルの挑戦を追うことは、未来に向けた示唆に富んだものになることでしょう。



《朝の曲》 2007年
アルミニウム、LED、ワイヤー、ビーズ
400 x φ 200 cm
展示風景:「すべての新しい影の上に」
カルティエ現代美術財団、パリ
Courtesy: the artist and Fondation
Cartier pour l'art contemporain, Paris
Photo: Patrick Gries

展覧会構成: セクション1 つかの間の存在
セクション2 人間を越えて
セクション3 ユートピアと幻想風景
セクション4 私からあなたへ、私たちだけに
スタジオ



イ・ブル

1964年生まれ、ソウル市在住。弘益(ホンイク)大学で彫刻を専攻。1990年代後半には国際的にも高い評価を受け、グローバル化以降のアートシーンの中でアジアを代表するアーティストとしての位置を確立した。ニューヨーク近代美術館(1997年)、ル・コンソルシウム(ディジョン、2002年)、国際交流基金フォーラム(東京、2003年)、カルティエ現代美術財団(パリ、2007-08年)などで個展のほか、欧米、アジアを中心にグループ展多数。1998年にはヒューゴ・ボス賞ファイナリスト。1999年の第48回ヴェネチア・ビエンナーレでも受賞歴がある。

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトにて申請いただけます WWW.MORI.ART.MUSEUM

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報: 渡邊、瀧、品川、桐木
Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館